

## 1. 研究目的

近年の子どものおもちゃは、技術の発達により優れた機能やデザインを持ったものが多く作られている。しかし、それらのおもちゃで遊ぶ子どもたちは、成長に連れ、夢中になって遊んだおもちゃにも飽きて遊ばなくなってしまう。

そこで、「自由に遊びながら、想像力や考える力を身に付けられる」要素を持った、子どもの成長と共に長く遊べるおもちゃを提案したいと考え研究を進めることにした。

## 2. 調査内容(事前調査)

現代のおもちゃは、それ自体が動き、鳴り、光るといった機能が付いている。こうしたおもちゃで遊ぶ子どもは、それをただ見ているだけになってしまう。これでは子どもがいずれ飽きてしまうことは明白に分かる。また、ワンパターンの遊び方しかできないおもちゃに対しても、様々な遊びをしてみたいと思う子どもの発育状態では同じことが言える。

機能の優れたおもちゃは、時に子どもから本来の「遊び」を取り上げてしまう。子ども自身が進んで遊びに関わるおもちゃこそ、子どもの成長や発育に重要である。

そしてターゲットには、1歳児からの子どもを対象に考えている。1歳児頃は、自分で思うように体を動かすことができるようになる時期である。視野が広がることで、興味の幅も広がり、様々なものに触れ多くのことを知っていく。この多感な時期に、遊びながら成長を促すおもちゃを通して、得られる発見や学びが子どもの成長に活かされると考えた。

## 3. コンセプトおよびアイデア展開

以上のことから、1歳児からの子どもを対象に、「長く遊べるおもちゃ」というコンセプトに、成長と共に遊びの幅が広がるおもちゃを提案した。

試作は、4種類製作した。

- ①かみ合わせができる形
- ②角や辺を平らにした形
- ③角を無くし、丸みのある形
- ④磁石で付く動物の形

## 4. 最終提案(作品)

以上4つの試作を使用者に試して頂いた結果、④の評価が最も高かったため、この案で本製作を進めた。

### (1)動物型の木製積み木

切り出した動物のデザインは、その動物の特徴を捉えながら丸み、複雑な凹凸を付けた。また動

物ごとに大きさの違いを付けることで、単一にならないよう変化を持たせた。(図1)動物は磁石でくっ付いており、同じ動物のパーツのみにぴったり合うように制作した。(図2)

こうした特徴により、バランス遊び、ごっこ遊び、形合わせ等、色々な遊び方が可能。

木が他の素材に比べて、極端に熱が伝わりにくい性質を持つ。そのため触れた時に人肌に近い温かみのある状態であり、心地よい感覚で遊ぶことができる。こうした利点から木材を使用した。

### (2)動物の名前カード

積み木と一緒に使うことで、遊びの幅を広げるためのカード。積み木の動物とその動物の名前が一致するような絵柄が入っている。(図3)



▲図1 動物型 積み木



▲図2 構造



▲図3 名前カード

## 5. 今後の発展

「ひとつのおもちゃで様々な遊びができる」、「子どもが自ら考えて遊ぶ」という要素から、子どもがより長く、また「遊び」に関心を持って遊ぶことができるものになった。安全面を考え、磁石の埋め込みの際、使用する接着剤の検討が必要である。

## 文 献

- [1] 1歳～1歳半のおすすめ遊び10選  
<http://www.889100.com/midori/category/infant/000312.phpl>
- [2] 絵本の専門店こそだてナビゲーション  
[kosodatenavi.com/omocha\\_point.html](http://kosodatenavi.com/omocha_point.html)
- [3] 「ぬくもり」だけじゃない、木のおもちゃのメリット  
[iko-yo.net/articles/84](http://iko-yo.net/articles/84)